

スペイン. 文学の旅

訳例と解答例

26. サール川の岸辺で(4), p.61

希望の黄昏(たそがれ)が, 私の人生に
寂しくも色あせて訪れた今,
荒れ果てて暗く寒い我が家へ
ゆっくりと帰りましょう.
明るい陽光が, その歓喜で
私の悲しみを深めないように.

不吉な鳥は喜んで黒い巣に帰り
獣(けもの)は隠れた穴に憩う.
死人は墓場に, 憂える人は忘却の中に,
そして, 私の魂はその荒野の中に.

* Ya que は「…であるのだから」, 「…である今」という意味です

* L2. el ocaso の位置づけがわかりません.

→この文はふつうの語順に直すと Ya que el ocaso de la esperanza ha llegado, triste y descolorido, para la vida となります。「希望の黄昏」ということは「希望が消えようとしている瞬間」を指します.

* L3.は正確には「暗くて, 荒れ果てていて, 寒い我が家」という意味です.

* L4. tornemos はなぜ接続法になりますか?

→「命令」, ここでは「…しましょう」という「勧誘」の意味で使うとき, 主文で接続法になります.

*L7. busca はなぜ「帰る」と訳すのですか？

→ここでは作者が家に帰ることを、鳥が巣を探し、獣(けもの)は隠れた穴に憩うことと比べています。「巣を探す」というのは鳥が巣に帰ることだと思われます。

*L7. el ave が女性名詞なのに el が使われるのは la ave だと言いきいからですか？

→これは中世のスペイン語で定冠詞が *elo* (男性), *ela* (女性)であったためです。それらが現代スペイン語で *el*, *la* となりました。ave のような a で始まる女性名詞の前では *ela ave* から連続する a...a が一つになって、*el ave* となりました。

*L7. Contenta は el ave(女性名詞)を修飾している。

*L8. bien は訳しようがないですが…

→そうですね。reposar bien で「よく休む」となりますが、「憩う」とだけ訳しました。

*L9. en su sepulcro el muerto だけが次の2つの句と語順が違いますが、作者は何かを強調したかったのですか？

→まず、脚韻に注意しましょう。それから 3 つの句を全部同じ構造にしまうと単調になります。

*L9. el triste. 定冠詞+形容詞で「…である人」の意味になります。

*全体を通してこの詩では語順に統一感がなく落ち着きませんが、狂気めいた感じを表そうとしているのでしょうか？

→語順を変えることによって狂気めいた感じを出すことはないと思います。むしろ詩であること、そしてとくに脚韻を意識すると語順を自由にしなければならないことを考えるべきでしょう。

●EJERCICIO, p.62

- (1) 私はホセに私の事情を理解してもらいたくてそのことを話した。
- (2) 私は母が許さなかったので来られなかった。

(3) どうして君は行ってしまったの？

(4) 私は彼がいない理由がわからない。

* (1) **por que** は「…するように」の意味ですか？

→そうです。そのときは接続法になります。

* (2) **porque** は「というのは…だからである」という意味の接続詞。

* (2) **irse** は「立ち去る」の意味ですか？「行ってしまった」の意味ですか？

→どちらもあり得ます。

* ¿**Por qué...**?は「なぜ…なのですか？」という意味の疑問詞。

* (4) **preguntarse** は「(わからないことを)自問する」という意味なので、ここでは「…がわからない」としました。

* (4) **Me pregunto el...**の **el** の部分が何なのか理解できません。

→**porqué** はこの場合、「理由」という意味の男性名詞で、**el** はそれにつく定冠詞です。